

雨乞岳 (1238m)



(ハイライトシーン)

※弥生班 計4名

[※ 実施日--2025年9月28日(日)]

① (沢谷乗越)



② (急登)



③ (渡渉)



⑥ (お花畑--2)



⑤ (お花畑--1)



④ (七人山)



⑦ (お花畑--3)



⑩ (東雨乞岳)



⑨ (雨乞岳の山頂)

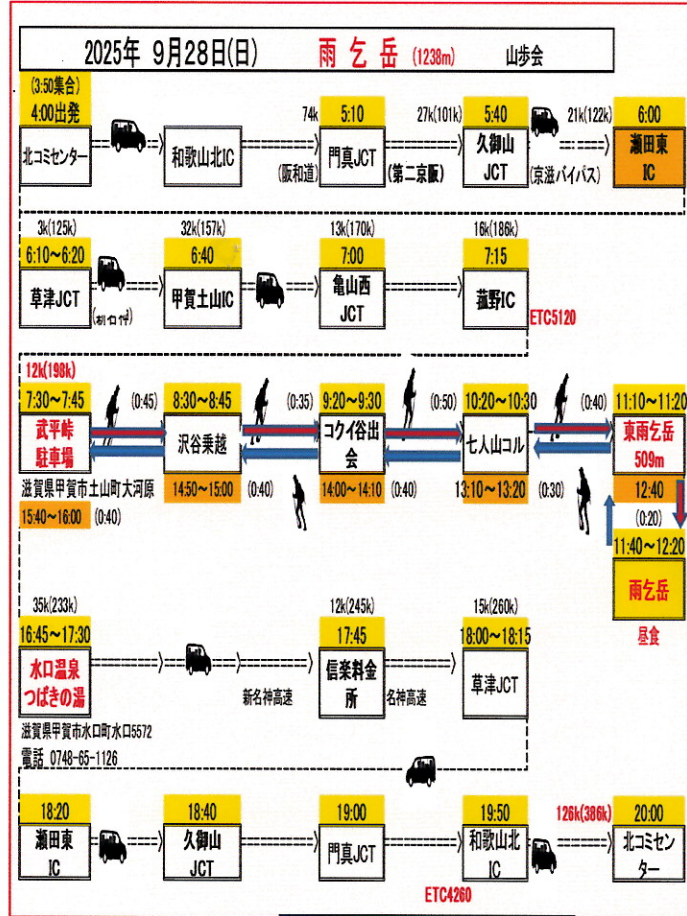
⑧ (笹薮)



雨乞岳 (1238m)

※(山行日) --- 2025年9月28日(日)

※(行程) [予定]



(雨乞岳のロードマップ)



紀峰山の会 (弥生班)

(参加者) 計4名 山本、有本、北山、関

※[はじめに]

(雨乞岳)

○雨乞岳 (1,238m) は鈴鹿セブンマウンテンの最高峰であり、鈴鹿山脈の中でも御池岳 (1247m) に次ぐ第2の高峰でもある。
鈴鹿セブンマウンテンとは、鈴鹿山脈を代表する藤原岳、竜ヶ岳、釈迦ヶ岳、御在所岳、雨乞岳、鎌ヶ岳、入道ヶ岳の七座。

(写真1)

(沢谷乗越)



・本日は雨乞岳の自主山行で、北コミ4時出発。
武平峠トンネル西側駐車場に7時30分到着。
8時15分、沢谷乗越で小休止。

(写真2)

(急登)



・急登では、ロープでよじ登るところもある。

(写真3)

(渡渉---その1)



(写真6)

(七人山)



・ 9時30分、七人山コルに到着し、七人山を往復する。木々が茂り展望はない。

(写真4)

(渡渉---その2)



・ 渡渉を繰り返しながら進む。

(写真7)

(お花畑)



・ 東雨乞岳下のお花畑。

(写真5)

(キノコ)



・ 珍しいキノコが点在していた。

(写真8)

(笹 薺)



・ 東雨乞岳手前の笹薺

(写真 9)

(東雨乞岳)



- ・ 10 時 15 分、東雨乞岳に到着。
霧、ガスが立ち込め、周りは真っ白な状態。

(写真 10)

(雨乞岳の山頂)



- ・ 10 時 40 分、雨乞岳に到着。
あいにく霧、ガスで視界が悪く残念！

(写真 11)

(雨乞岳----参考)



- ・ 天気であれば、本来見える東雨乞岳から見た雨乞岳。
(湯の山温泉観光協会の資料を参照)

(写真 12)

(下山時のお花畑)



- ・ この時は、薄日が射し視界良好。
- ・ 下山後。水口温泉で入浴し、帰路に就く。

※(山行でのできごと)

- 山行途中、前方でケガ人があり救助要請の連絡をするため携帯通話可能まで下山する人と出会う。9 時頃、怪我人と付添人に出会う。我らのメンバーが AU 緊急衛星連絡を試みるが通じたか不明。付添人があり、緊急連絡の下山者があったので、我々は山行を続行。
- その後、雨乞岳山頂で消防から携帯電話があり、ケガ人情報を聞かれた。
- 下山途中、救助隊と出会うし、ケガ人はヘリコプターで救助、付添人とレスキュー隊とで下山しているとのこと。

※(最後に)

- 当初の計画では、雨乞岳と藤原岳の宿泊山行を予定していたが、2 日目が雨天予報のため、雨乞岳の日帰り山行に変更して実施。
- 当日は、曇り空で、ガスで視界が悪い状態での山行となった。
- ルートは、ピンクテープで経路表示されているが、ガスで視界が悪いところでは迷うところが 2、3 箇所あった。
- 小川の渡渉を何ヵ所も繰り返し、急登やお花畑、頂上付近の笹藪漕ぎ等、変化に富んだルートが楽しめた。
- 時々、霧やガスの切れ目から薄日が射したが、山頂付近ではあいにく視界が悪く残念であった。
- 今回は自主山行であったが、ケガ人との遭遇で安全と行動姿勢の再確認をしました。
- 下山後、水口温泉つばきの湯で入浴し、次回以降、来年に向け、鈴鹿セブンの制覇を検討し帰路に就いた。